

## 令和元年度佐渡ジオパーク推進協議会臨時総会議事録

- 1 日時 令和元年 8 月 28 日 (水) 13:30～15:40
- 2 場所 あいぼーと佐渡 多目的ホール
- 3 出席会員等
- |        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 顧問     | 佐藤久雄 (県会議員)                 |
| 同      | 中川隆一 ( 同上 )                 |
| 同      | 島津光夫 (有識者)                  |
| 同      | 渡邊剛忠 (有識者)                  |
| アドバイザー | 澤栗浩明 (環境省佐渡自然保護官事務所首席自然保護官) |
| 会長     | 三浦基裕 (市長)                   |
| 副会長    | 渡邊尚人 (教育長)                  |
| 同      | 樺澤 尚 (新潟県佐渡地域振興局長)          |
| 会員     | 加藤 透 (佐渡観光交流機構常務理事)         |
| (代理)   | 木村 (佐渡連合商工会理事)              |
| 会員     | 本間 皓 (JA 羽茂代表理事組合長)         |
|        | 村山優樹 (新潟交通㈱代表取締役専務)         |
| (代理)   | 野田 悟 (佐渡汽船本社統括部長)           |
| 会員     | 藤林紀枝 (有識者)                  |
|        | 中川清太郎 (有識者)                 |
|        | 市橋弘之 (佐渡トレーニング協議会事務局長) 委任状  |
|        | 中道康夫 (佐渡山岳会長)               |
| (代理)   | 内田 (佐渡漁業協同組合)               |
| 会員     | 中川良明 (佐渡森林組合代表理事組合長)        |
|        | 逸見 光 (佐渡青年会議所理事長)           |
|        | 池 善世 (佐渡ジオパークガイド協会会長)       |
|        | 中野 洸 (佐渡を世界遺産にする会会長)        |
|        | 大石惣一郎 (佐渡棚田協議会会長)           |
|        | 猪股雄司 (佐渡市企画課長)              |
|        | 坂田和三 (佐渡市世界遺産推進課長)          |
|        | 濱崎賢一 (佐渡市教育委員会佐渡学センター長)     |
- 4 欠席委員
- |    |                                  |
|----|----------------------------------|
| 顧問 | 小林巖雄 (有識者)                       |
| 会員 | 前野 貢 (新潟大学理学部長) 委任状              |
|    | 安東宏徳 (新潟大学佐渡自然共生科学センター海洋領域<br>長) |
|    | 崎尾 均 (新潟大学佐渡自然共生科学センター長) 委任状     |
|    | 永井 充 (JA 佐渡経営管理委員会会長) 委任状        |
|    | 松岡 篤 (有識者) 委任状                   |
|    | 佐々木史郎 (佐渡観光旅館連盟会長)               |

## 5 事務局

斎藤辰弥  
北見太志  
北見明亜  
市橋弥生  
貞包健良  
相田満久

## 6 審議結果・質疑

### 報告事項

ジオサイト保護保全管理計画の決定について

※運営委員会・総会で修正意見あり。修正を施す前提で計画決定とする。

再認定審査の対応（行程等）について

※審査の行程説明。受審体制として、会長・副会長・運営委員（10/6 講評への参加）・部会長（対応課題）、その他関係者の出席を依頼。個別に別途ご案内する。

議案第 1 号：再認定審査報告書・その他提出資料の審議について  
結 果：承認

※運営委員会・総会で修正意見あり。修正を施す前提で承認（修正後のものを改めて会員に示す）

（議事内容要約・質疑応答）

1 会長あいさつ

2 総会成立の報告

会員数 27 名、出席者数 21 名、委任状提出 4 名、計 25 名

過半数に達しているので、協議会設置要綱第 12 条第 4 項の規定により総会成立

3 報告事項

(1) ジオサイト保護保全管理計画（案）について（資料No.1）

前回再認定審査で指摘された課題解消のため、ジオサイト保護保全管理計画を作成。

【意見・質疑応答】

○顧問：天然記念物に関する記述が落ちているのではないか。

再審査の審査員に文化庁の天然記念物担当の方がいる。平根崎の波蝕甕穴は天然記念物だが、ジオサイトに入っていない。また、小木海岸も天然記念物である。ところが小木海岸は問題があると思っている。ちょっと気をつけた方が良いと感じている。

事務局：小木海岸が天然記念物であることは認識している。また、同海岸では崩落等もあり、これについては今後どのように進めていくかというのは本計画で示すとおりやっていきたいと思う。その他も含めて天然記念物は把握している。

○顧問：今の崩落の件で、手を加えるといっても限度があると思う。自然のまま放っておくのか、あるいは非常に重要な点かもしれませんし、仮に大掛かりな手を加えるにしても財政的なバックアップ、その辺のところは充分確保できるのか。

事務局：おっしゃる通りで、自然の現象に手を加えるというのはなかなか難しい

と感じている。やはり管理者である地域振興局や市農林水産課、民地の所有者の方もいらっしゃるの、この方々と充分相談しながらどう対応するのかということを議論していかななくてはならないと思う。

予算化等についてはなかなか難しいというのが現状で、その辺りについての協議も（前述の方々と）進めながら予算化が図れるかというところまで話をもっていかなければいけないと思う。まだそこまでの事例がないので何とも言えないが、そのように考えている。

○委員：P16 の管理体制の図の中で、「報告」「指示」が図示されたフローチャートになっているけれども、地域住民から報告というのが少し違和感がある。例えばこの部分を「意見」とか「助言」とか、そういった動きになるのでは。

事務局：ご指摘のとおり修正いたします。

○委員：P23 で、土石の採取などは原則禁止として、採取しようとする方は市に申請書を出すということが書かれているが、採取の規制は基本的に国に基づいた法令でないとできないと思うのだが、この文章だと計画に基づいて法規制を行うというふうに読みとれる。また、最後のページの採取申請書を見ると、申請書はジオパーク推進室へ提出してくださいとなっているのが気になる。対処法としては、ジオパーク推進室に出してもらうのは許可申請書ではなく、計画書という形にして、計画書を出してもらって、ジオパーク推進室の方で許可権限者に問い合わせる手続きの便宜を図るという形がとれるのではと思う。

事務局：こちらの意図としてはそういう考え方で作成した文章ですが、誤解を招く内容になっていたかもしれませんので、再度検討して練り直したいと思います。

三浦会長：（今の件で）そういう意味では、P26 の様式では提出先が事務局となっているので、上の申請の宛名は推進協議会とした方が良く思うので修正をお願いします。

○会員：P17 の 4-(2)、希少な動植物うんぬんと書いてあるが、希少な動植物というのを定義付けるものというのは何に準じているのか。

事務局：はっきりとした植物名等は言えないが、やはり絶滅危惧一種とかの、レッドデータブックに載っているものを取り上げている。あとは、地域個体群というか、そういうものについても守るべき植物としてリストは作成してあるが、手持ちの資料がないので具体的には言えない。原則そういう形で指定するというか、取り上げている。

○会員：具体的に佐渡市で、今言われた絶滅危惧種を取り上げたレッドデータブックが出版あるいはインターネット等で開示されているのか。

事務局：調べたものとしては、インターネットで検索を行った中でのものを取り上げているが、佐渡市で出しているというものは把握していない。

○会員：例えば新潟県の場合、2001 年版（動植物）が出ている。国では既に 2007 年版で改訂版も出ている。残念ながら佐渡市においては、作成する話はいくぶん前からしていたような気がするが、結局は実を結んでいない、出来上がっていないというのが実情である。こういう状況では佐渡市では難しいのではないかなと思う。なぜならば、国・県はそれなりに作成しているが、佐渡島という自然状況の中に適合したものがない限り、適正に対処することが難しいと思う。いろんなカテゴリーの中で、佐渡独自のものを早急に作るべきだと思うが。

三浦会長：確かに国の基準をそのままもってきているだけで、佐渡の環境の中でものを別途切り出してはいないと思う。ベースは国のレッドデータブックを参照しながら、佐渡の中で抽出すべき動植物について、ジオパーク以外の部分も絡んでくることになるので、確認したうえでどの

ような対応が可能なのか検討させたいと思う。

三浦会長：（他に意見がなく）では、今ご指摘のあった点も含め、全体として修正点を計画書に落とし込みますので、基本的にはその修正を前提としてこの保護保全管理計画を決定ということにさせていただきたい。

改めて最終版については会員の皆様に再度配布させていただく形にさせていただくのでよろしくお願いします。

(2) 再認定審査の対応等について（資料No.2）

審査日程の説明。受審体制としては、会長・副会長・事務局、それから10月6日の講評のところは運営委員の皆様にも参加していただきたい。その他、各日の行程の内容により、部会長や市役所担当者、その他関係者に出席をお願いしたい。改めて個々にご案内させていただくのでご協力をお願いしたい。

## 5 議題

(1) 再認定審査報告書（添付資料含む）の内容審議

10月の審査に先立って、日本ジオパーク委員会に提出する。

前回の再認定審査で指摘された課題の解消に向けて取り組んだ内容を盛り込んでいる。様式のフォーマットは日本ジオパーク委員会から示されており、まずは事務局で素案を作成し、各専門部会でチェックしていただいた。部会の意見も反映して修正を加えている。今回議題としてあげさせていただいたことについては、前回の再認定審査時には、会員の皆様に事前に説明する暇がなく作成・提出し、後から内容についていくつかご指摘を受けたというところを反省点として、報告書の提出にあたり会員の皆様にもどういった内容のものが提出されるのか予めご承知おきいただきたいというところを出させていただいた。説明に対してご意見等出てくると思うが、反映できるところは反映させたいというふうに思っているのでご理解願いたい。

(2) 自己評価表の説明（資料No.4、資料No.5）

2種類の評価表。違いについて、資料No.4の方が世界ジオパークの自己評価表を日本語に訳したもの。資料No.5の方は資料No.4の自己評価表をベースに日本ジオパーク委員会が日本オリジナルで作成したもの。全体の項目数は資料No.4に比べて少ない。一方でオリジナルの方は、防災・減災という項目が新たに追加となっている。

この自己評価表は、各項目について自己採点し点数を付けていくもの。この点数は再認定審査にはまったく影響はない。どこが優れているか、どこが劣っているかなどを審査員とともにチェックしていくというのが目的である。

評価表の詳細な説明は割愛した。

※意見・質疑応答なし

### 【再認定審査報告書についての事務局補足説明】

午前中の運営委員会でいくつか意見が出されたので補足説明する。

- ① P.1.B 提出書類一覧、1～7 というところで、6の別冊1～6と、7添付資料、本日別冊は配布していないが、この辺の資料の揃え方の考え方を整理するように。
- ② P.2.C.2 3つの取組～ 完成したストーリーを広く周知するためシンポジウムの開催とその内容が細かく書かれているが、その前後の内容は、こういうことをやりましたという内容で終わっている。全体の体裁について検討してもらいたい。
- ③ P.3.6 観光導線の構築 モデルコースの作成についての記載があり、同じような内容が P.4.7 協議会全体の実質的な活動～ の項目にも載っている。どちらか一方に載せるようにしてはどうか。
- ④ P.4.8 専門的すぎる看板～ パンフレットに関する記述のところ、ジオパー

クマップをリニューアルし、在庫がなくなり増刷したという部分で、当初何冊印刷したが無くなったといった、具体的な冊数を入れた方が良いでしょう。

看板設置のガイドライン作成に関する記述について、ガイドラインの作成をいつまでを目途に完成させるといった記述を載せるように。

- ⑤ P.24 岩石販売に関する記述の中の添付資料No.25 について、資料集の一番最後の資料で、岩石鉱物販売店舗一覧となっているが、この中には店名は載っているが既に営業されていないものとか、事務局ですべての店舗を廻り切れてなく、空欄のところが多いというところで、載せない方がよい店もあるのではないか。内容を精査するように。

#### 【再認定審査報告書に係る意見・質疑応答】

- 顧問：P.2.C.2 3つの取組～ 記載の内容が課題の解消への取組という観点で答えていないように感じる。もうちょっと整理しないと。具体的にしないとなかなか答えが見つからないのではないかと心配がある。

もう一つ、教育活動や地域活動についていろいろと書かれているが、観光との関係が非常に薄い感じがする。じおぱーくをもっと観光に活かすというのが、佐渡の場合には必要ではないか。そこが弱いのではないか。審査員の中には観光の専門家もいるので、必ずその点は指摘されるのではないか。

それからもう一つ、佐渡汽船の待合室でジオパークのパンフレットを手にして見たが、表紙の写真の場所が、観光客が見た場合にこの場所がどこかわからない。私もわからない。どこにも書いていない。そのことが気になる。ジオサイトマップに掲載してある見どころとしての写真等。これらをジオサイトという言葉を使っていない。ジオサイトとの関係がわからない。その辺はどういうふうに考えているのか。

事務局：ジオサイトのマップについては、更新をしたタイミングとサイトの再設定の作業とのズレといったところもあって、ジオサイトマップの中では見どころという形で、ジオサイトという表記にしていらないが、先ほど説明したとおりサイトが再設定されたというところで、既存のパンフレット、マップ等についても見直しの作業は進めていくことを考えている。ただ、具体的な更新計画は現状できていない。

- 顧問：審査員の方が佐渡汽船の待合室でパンフレットを見らと思う。そうすると整合性がなくなってしまうと思う。

それからもう一つ、西三川砂金山が抜けてしまっている。これは世界文化遺産候補の1つでしょ。となると、3つの関係は出てこない。それはまずいのではないか。

事務局：西三川砂金山がジオパークマップに載っていないという点ですが、ジオサイトには西三川は含まれています。ただ、西三川砂金山や笹川集落については、現在市世界遺産推進課で集落と世界遺産登録に向け活動や相談を行っているところだと聞いている。その中で、ジオパークのマップや観光パンフレットに笹川集落が載って、一般の方が多く訪れると、集落の方に迷惑がかかるのではというのが世界遺産推進課から意見として出ている。活動が先行している世界文化遺産の方と調整を進めたうえで、一般向けのパンフレットとか、あるいはホームページに情報を出していくとなったところで、現場の方と相談を行っている状況。西三川砂金山という存在がジオパークの価値を高めるうえで必要であることは事務局側も認識しており、サイトリストの中にも加えている。ただ、マップに載せていないのは、現状の活動という中でこれから解決していく課題があるというところで載せていないということである。

「佐渡の大地」のパンフレットについて、表紙の写真はフォトコンテス

トで撮影されたものだが、この場所は北鶴島ではないかと思われる。ご指摘の中で、場所がわからないとのことなので、今後更新する際にきちんと場所を入れるなどの対応をしてパンフレットを作っていきたいと思う。

三浦会長：観光部分のところ。ここの表現の仕方も含めて、基本的には持続可能なツーリズムという項目のところで、どこかにまとめてしまっているのではないかと思う。ジオパーク関連の商品開発、DMO を中心に少しずつ始めているので、その辺のところの具体的な、これまで開発された商品も含めて、もう少ししっかり進めていきたいと思うのでよろしくお願いします。

三浦会長：ここまでで数々いただいたご指摘を踏まえ、修正した内容等について改めて手直ししたものを皆様に確認していただく手順を取らせていただきたい。

○委員：自分はここに赴任する前に福島の方で国立公園の仕事をしていて、その時に磐梯山ジオパークだったのだが、商工観光の方が担当していて、磐梯山のジオカレーとか、地元の商品とうまく結びつけて、地域の方々を巻き込んで頑張っていた。また、ユネスコのエコパークにも関わっていたのだが、地域の魅力をどんどん発信して、自主的な取り組みにつながり、地域とうまく連携しているように感じた。佐渡はすごく良いものを持っていると思うので、頑張って自主的な取り組みをしていただけたらと思う。

○会員：ジ阿斯は登録されてから8年経って、この9月にはヒアリングがあるそうだが、なかなか島内における認知度が上がらない状況が続いて寂しく思う。日本初というすばらしい称号をもらっているのに、能登は活用しているのに佐渡は活用できていない。このジオパークの中にあるジ阿斯だと思うので、ぜひご協力をいただいて、認定されたからもういいのではなく、認定されたからこそどうやって佐渡の振興に使っていくのかということを考えるのが行政の仕事だと思う。今後ともぜひご支援ご協力をお願いしたい。

○顧問：今日の議事の対象は日本ジオパークの再審査、これに向けてのことに限定されているわけだが、やはりこれではなかなか将来的にもやっていけないと思う。世界ジオパーク認定にどう積み上げていくのか。そして最近では3つの資産ということであんなになってきたけれども、世界文化遺産が表に立っていて、世界農業遺産認定。ジオパークも世界認定にもっていくんだという勢いがないと、将来展望が描けないのではないかと思う。ですから、世界ジオパークに向けてどうこれからアプローチしていくのかという、明確な道筋を、目的を設けないと、この再審査に受かることに汲々としている感じを受ける。これから道筋を明確にしていく、世界ジオパークにどう結び付けていくのかという、そういう展望をこれから描いていく必要があると考えるがいかがか。

三浦会長：まず、佐渡市はジ阿斯世界農業遺産認定を受けた。ジオパークについても短期間で日本ジオパークに認定された。金銀山について、世界文化遺産登録を目指しているという中で、○顧問のご指摘はもっともですが、そのジオパークに登録された瞬間から簡単に世界ジオパークを目指すということを唱えてきた。その結果が前回の条件付再認定でした。世界ジオパークを目指すための土台になるものさえ出来ていなかった。そして今年再審査を受けなければいけないという状況を迎えたということなので、まずしっかり日本ジオパークとして認定をもらった上で次にどうやって進んでいくのかというところの組み立てに入らせていただければというふうに思っている。

6 その他

事務局より、出席者にピンバッジを配布させていただいた。ぜひ会員の皆様からPRしていただくということで活用していただきたい。

7 樺澤副会長あいさつ

終了